

彦いち耕し ばなし 噺

第2回 感激！ 初めての収穫

「タネ蒔いたいたら、
出来ちゃった根」って、
いいのかなア？

江戸時代から由緒ある治助芋を
植えよう！ と意気込んで
みたものの400坪は広大すぎる。
そこで、食い気だけであれこれ
植えた作物の種。今回来てみたら
なんと、小さな大根が育っていた。
気をよくして、ますます
息気軒昂な師匠。収穫祭に向け、
夢は膨らんでいるようですが……

大根の芽が出たことが嬉しくて、方々で喋る。この調子だと、作物が出来た日にやあ、どうなることやら……そんな心配より作物の世話。

実りの秋に備え雑草を取り除き、害虫をやっつけなくてはいけないのだ。

ある日、仕事のついでに、畑へ向かう。

この半年ばかり山梨でこども達に落語を教えている。終演後、地元の企画人「ざぶとん亭風流企画」の馬場さんを誘って行くことに。このところ時々、仕事関係の人も時間が合えば畑作業に引っ張り込んでいるのだ。

大根の間引きのやり方を、電話で松坂忍さんに聞いていたので、早速やってみることにした。建築家の松坂さんは、我々の畑作りの先生だ。

3本ほど芽が出てきているので、そこから小さいものを取り除く。取っていくうちに大きさが同じくらいの芽が多いことに気付く。んん、どちらも頑張ってるしなあとよくわからない理由で、「可哀想になつてそのまま取らずにおいた。これが後に大変なことになるのだが……。間引きした若い芽は柔らかいので丸ごと食べると甘くて美味しい。野菜好きの人達は、この新芽を食べるのが楽しみだという。

そっかあ、間引かれたからといって、若い芽達は、役立たずにならず、ちゃんと救われているのだ。よかった。よかった。リストラだつて救われるのだ。きつと。そんな思いで我々も食べた。とても美味しかった。

後日、再び畑へ。

「あれえ、ちゃんと間引いてない」

間引くのはちょっと可哀想だな……

スーパーで見たことない穴あきキャベツ。虫の好物らしいが、我々も好き。



小ぶりな小雪。間引いてないのでより小ぶり。完全無農薬「出来ちゃった根」!



と、松坂さん。

「どっちかを選ぶなんて、可哀想で……」
「ありゃ、こんな大きくなって。今からでも急いで間引きましよう」

大根を抜いてみるとある程度生長した数本が、ぐにゃぐにゃと絡み合っている。

「辛味大根だけにカラミ合ってる」とか言ってる余裕もなく、せつせと間引いた。

「コレ（『小雪』という品種の大根）も間引いた方がいいですか？」と尋ねたら、

「それ収穫できますよ」
「え、本当ですか！」

その場にいた地主の小林隆史さんも、

「二十日大根みたいなもんだ。もう食べられるよ、美味しいよ」と笑ってる。

早速、収穫！ 収穫第一号なり。大根「小雪」を土を払ってかじる。

がぶりっ、お、おいしい。やはり無農薬野菜は美味しい！ と言ってはみたものの単に何もなかっただけだ。名付けて「出来ちゃった大根」いや「出来ちゃった根」をスタッフ一同でポリポリツとかじる。

本数もあったたので、赤坂の知り合いの店に送ったら後日とても喜ばれた。嬉しかった。

「こっちの水菜は育ちすぎたくらいで、もう十分食べられますよ」と、松坂さん。これも早速かじる。



トマトよ、上へ伸びろお～。そして全身で太陽を浴びてあま～くなあれ。

土地の底力のお陰で、見事な収穫



松坂さんが、小屋をあっという間に造ってしまった。寝泊まりも出来ちゃうのだ。優しさと技術に平伏。(右)ダイズをダイジに植える!?





虫も放っておかない穴あきキャベツもちよつと食べてみる。うまい！

ウチの近所の居酒屋にある「店長のごきげんシャキ

シャキサラダ」よりはるかにごきげんになる。しかし、我々も食べてるだけなら虫と変わらないので、早速次なる作業を行うことに。

トマトがちゃんと育つよう柵を立てる。棒に絡まって上へ育つ。柵を立てないと横に這って行って太陽も当たらないし育ちが悪くなるのだ。松坂さんが用意してくれた棒を立てて、せっせと結ぶ。害虫も見つけては駆除。ナホシテントウムシやフタツホシテントウムシは問題ないのだが、薄黄色でまだらのニジユウヤホシテントウムシは作物を食べるので駆除する。

さて、今回も妄想から植える作物を決めることにした。

「日本酒で冷や奴とか食べたいですなぁ」と編集長の今井田さん。

「じゃあ、大豆植えて味噌も。納豆も食べたいなぁ」と僕。

などと言ってみたものの、どれだけの大豆でどれだけの豆腐や味噌が出来るのか、全く見当もつかない。当然、味噌の作り方もわからない。知識は店で買うパッケージに「原材料大豆」とあることくらい。頼りの松坂さんに伝えると、「じゃあ、植えましょ」と笑っている。収穫量が見えないまま植えていく。うねは作らずそのまま蒔く感じ。大根のときのように3粒植えて、土をちよこんと被せていく。

鼻歌まじりで、トラクターを操縦

歌い上げようが、草が生えようが、全てかき消してしまう男のトラクター。





未知数大豆エリア完成。

いろいろ植えてはみたものの、なんたって400坪。まだまだスペースはある。食べたいものと手間を吟味し、残りエリアには蕎麦を蒔くことにした。

蕎麦蒔きに備え畑を攪拌作業。こう広いと鋤では限界がある。

そこで登場。燃える男の赤いトラクター！

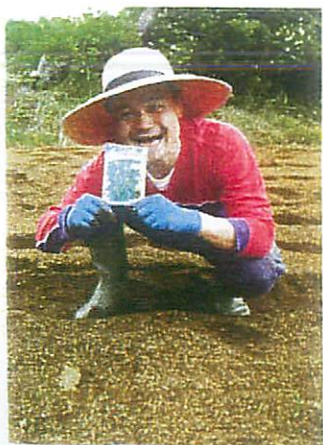
小林さんに扱いを教わり早速始動。ドドドド……！轟音だ。ギアを入れるとゆっくり走り出した。後ろの攪拌するアイツがグルグル高速回転。おおう、走った後、畑は攪拌され綺麗になっていく。気持ちがいい。

日々仕事で、僕の通った後は荒れ果てているんだろうなあ、と思いつつ、トラクターで一面攪拌し、整地していく。

次回はよいよ蕎麦を蒔くのだ。胸が高鳴る。まずは気持ちの準備に、長野で蕎麦を食べよう。



ちっちな芽が出た！ どんどん育て



頭に浮かんだ食べたいモノを植えていく。パッケージでも選ぶ。この枝豆は「湯あがり娘」。秋にどんな娘が湯あがるのか。



文／林家彦いち 撮影／佐藤秀明 編集協力／森山伸也